

(00.11.19)

私と音楽

【この手紙は、センターの学生に演奏会の誘いを受けた際、書いたものである】

高部英明

Aさん

「芸術の秋」へのお誘い、ありがとう。ご推察の通り、私はクラシックが大好きです。特にどの作曲家が好きと言うのではなく、時期により、気分により選んでいます。プラハに出かけたときは（添付の所内版参照）ちょうどスメタナが気に入っていた頃でした。ドボルザークの「アメリカ」はプラハで買って、その後、良く聞きました。イタリアのパレナに行ったときは、初期バロックの演奏会があり、チェンバロのとぎすまされた音に魅了され、日本では余り見かけない、無名の作家のCDを買って帰りました。今でも、車で良く聞きます。

ミュンヘンにいた頃（80/9-81/8）は、もっぱらオペラでした。ひと冬に見た回数はかなりの数です。出し物が週に2・3回も代わるので、研究所の帰りに市の中心広場（マリエン・ブラッ）で妻と待ち合わせ出かけたものです。700円程度の天上座敷の席でしたが（ここが音が一番良い、と音楽大学の学生が言っていた）、日本人で音楽を勉強に来ている学生達と知り合い、劇の筋やら、音楽など教えていただきました。一冬で何回通ったか。30回は越えているように思います。

21日の音楽会のお誘い、有り難う。まずは落ち着いて、自然体で、楽しみながら、演奏して下さい。私は「西宮湯川国際会議」のため甲子園都ホテルに缶詰の状態です。貴方が演奏している頃は会議のバンケットで、外国の有名研究者と話をしている頃でしょう。残念です。

そうだ。貴方はピアニストだから、20年前に心臓発作でなくなったドイツのカール・リヒターはご存じですね？実は、彼の最後の演奏会となったコンサートを聞いたのですよ。大家さんの一家（フィッシャーさんと言います。いまだに文通しています。先日は、当時11才だったペーターがこの夏、結婚した時の写真を送ってきました。奥さんになった彼女には2年前会いましたが、とてもすてきな女性なんですよ。）が私たちを誘って下さり、出かけたのです。

長くなりました。では。 高部